

身近なもので防災グッズをつくろう！ —親子で防災+ごみ減量にチャレンジ—

(一社)産業環境管理協会 向中野 裕子
資源・リサイクル促進センター

突然やってくる自然災害。そんなとき、避難所での生活が必要になることもあります。たくさんの方が一緒にいて、物資も限られている中で、子どもの様子や声に気を配りながら、見知らぬ場所で過ごすのは、大人も子どももストレスがかかります。だからこそ、普段からの災害への備えが大切だと、ついつい重く考えてしまいがちになりませんか。生活を防災のために変えるのではなく、日常生活に防災をそっとなじませることができたら良いですね。例えば、家にある身近なアイテムを活用して、子どもたちが楽しみながら防災グッズを作り、日常生活に活かしていく力をつけると、避難所での限られた物資を有効活用するくらしにも役立ち、日常でもごみを減らす思考が働くようになるかもしれません。ポイントは、親がほんの少しの時間でできることと、無理なく自宅にありそうなもので子どもが体験できることでしょうか。そんな取り組みを小学3年生の娘と挑戦してみました。

災害を知る

大災害を経験したことのない娘にとって、災害を恐れるべきところは恐れても、無駄に恐れず、正しく理解することが大切だと感じています。そこで、災害の事実を知るために、NHK for School「キミも防災サバイバー！」¹⁾の動画を視聴しました。この動画は小学生が洪水、噴火、地震の過去の被害事例、避難生活の実態、防災の工夫や地域の取り組み等をインタビュー形式で紹介しています。同じ世代が体験して得た知識や言葉は、娘にとって深く響くものがあり、視線を合わせて体験を理解し、そこからもし自分だったらどうするかを考えることに役立っていました。さらに、映像資料は大好きなイモムシや人間以外の生き物がどんな影響を受けるのかについて考えるヒントにもなりました。

災害に備える

NHKの「つくってまろう！—みんなが集めた防災アイデア—」²⁾は、防災や避難所生活で役立つ25種類のアイデア動画が、どれも30秒程度で紹介されています。ペットボトルや新聞紙、段ボールなど身近なもの、使い終わったものを再び活用し、避難生活に役立つ防災グッズを作ることを学べます。作り方は動画に短くわかりやすく解説されているため、幼稚園や保育園に通う子どもたちにもお勧めです。

ペットボトルを使う

光源の上に水を入れたペットボトルを置くと、ランタンのような照明になりました。

ペットボトルの大きさを変えるとどうなるの？

ペットボトルの大きさと光り方が違いました(図1)。手元の情報を見るときは345 mLのほうで、周囲と話をするときには1.5 Lサイズが良さそうです。



図1 ペットボトル照明
(容器サイズ左：345 mL、右：1.5 L)

光の色を変えたら、楽しそう！

繰り返し楽しめるように、クリアファイルに色に塗り、光を透過しました。特に青や緑の色は、天井から映し出された水の影と合わせり、まるで海のような雰囲気を作り出しました。そこで影絵にチャレンジして、娘は海の世界を楽しむことができました(ただし、赤色はあまりお勧めできませんでした)。避難所では子どもたちのストレスが大きくなりがちです。遊びの要素を取り入れることは、心の回復や子どもたち同士のコミュニケーションにも役立ちそうです。

新聞紙

本当に新聞紙で温かくなるの？

ごみ袋を切り、新聞紙の中に入れて結ぶと防寒着が、段ボールを厚紙にし

てスリッパの形をつくり、それを新聞紙で覆うと、ふかふかのスリッパに。優しい温かさが気に入ったようで、娘は防寒着を着たまま就寝しました。



図2 新聞紙で防寒着とスリッパ

牛乳パック

牛乳パックを切り、折り曲げるだけでスプーンができます。試作品スプーン1号はヘラのような大きさとスプーンとは言えませんでした。大きさを改良したスプーン2号は、ヨーグルトを食べるのに丁度よいサイズに仕上がりました。



スプーン1号 スプーン2号

図3 牛乳パックを使ったスプーン

身の回りのものを使って、わずかな時間でも防災グッズを作り、ごみを減らす体験は、子どもたちがものづくりの思考を楽しむ機会にもなりそうです。

参考文献

- 1) NHK：NHK for School「キミも防災サバイバー！」, https://www.2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180416_00000 (2023年12月18日閲覧)
- 2) NHK：「つくってまろう—みんなが集めた防災アイデア—」, https://www.3.nhk.or.jp/news/contents/bousai_tips/ (2023年12月18日閲覧)